

# 巻 頭 言

坪井 俊

日本数学会事務局が活動拠点を台東区台東に移して1年半経ちました。大学では国立大学法人化への対応に追われておりましたが、その中で数学の教育研究の進め方の議論も多くなされたと思います。一方、国民的な基礎学力の低下問題、数学の教育の問題、平成18年度からの大学入学者への対応の問題など様々な場面で、日本数学会の活動への期待は、益々高まっていると思います。以前、「数学通信」の編集に携わった者としては、この「数学通信」を通じて密接な情報の交換が行われることを願っています。

これからの教育研究に多少とも関係があると思いますので、この場をお借りして、勤務先である東京大学数理科学研究科が新たに管理運営する「玉原国際セミナーハウス」について紹介させていただきたいと存じます。

今年(2005年)4月に、朝日新聞に關係の深い財団法人「森林文化協会」から、国立大学法人「東京大学」に、群馬県沼田市玉原(たんばら)高原にある「朝日の森ロッジ」が寄付される予定です。これを、数理科学を中心とするセミナーが行えるように研修室に黒板・スクリーン等を整備、また学生・研究者の宿泊に対応できるように研究室を改装し、7月に「東京大学玉原国際セミナーハウス」として開所する予定です。

玉原高原は雪深いところで、セミナーハウスの使用は4月下旬から11月中旬に限られてしまいますが、夏涼しく、抜群の自然環境を持っています。このようなセミナーハウスで合宿しながらセミナーを行うことが、特に数理科学の研究、若手研究者の育成、学生の教育上非常に有効であることは、かねてから大学内部で主張していたことです。ドイツのオーベルヴォルバッハの研究所など、欧米の多くの研究所がこのような立地を持っており、今回、この寄付の話が出てきたときに数理科学研究科にその管理運営の打診があったことは、大学本部関係者が我々のこれまでの主張に配慮してくれたおかげです。1つの夢が実現されることになりました。

「玉原国際セミナーハウス」は、玉原高原のなかで、標高が500m下の藤原ダムとの間で揚水発電を行っている玉原湖の近くの標高1200mの国有地にあり、近くにはブナ林、水芭蕉の咲く玉原湿原があります。セミナーハウス自体は、1400㎡の木造2階建てで、山小屋風の美しい建物です。セミナーハウスまでは、上越新幹線上毛高原の駅から予約したタクシー・バスで40-50分です。セミナーハウス自体が、車を降りて玉原高原散策のハイキングコースを10-15分ほど歩いたところにあります。従って東京駅からならば最短2時間と少しで行くことが出来ます。セミナーハウスでは、非常に専門的な研究セミナーから数理科学の裾野を広げる教育活動まで広い範囲の活動を考えています。セミナーハウスの宿泊可能人数は30から50で、小規模な集中的なセミナーに最も適していると思います。60人を超える規模のセミナーも可能で、その場合は参加者の一部は、近くの玉原高原のペンション等に泊まっていただくことを考えています。ペンション等は徒歩30-40分程度(車と徒歩なら20分)のところにあります。

開所するまでに、財務上の問題、十分な食事の提供など運営上解決すべき問題が山積していますが、数理科学の教育研究の拠点の1つとなるように関係者のひとりとして努力したいと思います。セミナーハウスにおける数理科学の教育研究の成功のためには、セミナーハウスにおける企画等について日本数学会の会員の皆様のご支援が必要です。よろしくお願い申し上げます。

(つばい たかし, 東京大学大学院数理科学研究科, 元数学通信編集委員長)